

農村における青年のスポーツ活動と コミュニティ活動に関する研究

—— スポーツクラブ・青年団加入者と未加入者の比較 ——

堀 賢 治

(保健体育研究室)

(平成3年4月25日受理)

I. 序 論

戦後の高度経済成長は農村における地域共同体の崩壊をもたらした。そのために、近年コミュニティづくりの一環としてコミュニティ活動が推進されてきた。しかしながら、コミュニティ活動を担っているのは壮年層が中心であり、従来青年層が担っていた活動は、農村における若年人口の流出、後継者の不足などによって振るわないのが現状である。またコミュニティ活動を担っている人たちは、過去の青年団加入者が多く、青年団活動を活発にすることが農村再生のカギを握っているともいえる。しかしながら、若者の地域離れ現象が農村においても生起しており、深刻な事態をむかえている。

このような状況の中で、青年団活動をみると種々の活動（学習、文化、スポーツ、社会活動など）があるが、スポーツ活動の占める比率は年々高くなっていく傾向がみられる。またスポーツ活動は人間関係を作るうえで機能し、青年団加入への動機づけにもなり、スポーツ活動を通して青年団が活性化される手段にもなりうると思われる。

そこで本研究では、スポーツクラブと青年団に焦点をあわせ、次のようなことを主な研究目的にした。

- (1) 農村の青年のスポーツ活動の実態を把握する。
- (2) 農村の青年団活動の実態を把握する。
- (3) 青年団におけるスポーツ活動の果たす役割を明確にする。
- (4) 青年団未加入者を加入させるにはどのような方策が必要であるかを探求する。
- (5) 農村の青年のコミュニティ活動の実態を把握する。
- (6) スポーツクラブや青年団活動はコミュニティ意識の形成に寄与するのかを明確にする。

II. 方 法

調査対象：愛媛県下でも青年団活動が盛んな農村地域（東宇和郡宇和町・野村町・城川町、北宇和郡吉田町）を選び、その町の20歳代前半の1,800名を選挙人名簿により抽出した。

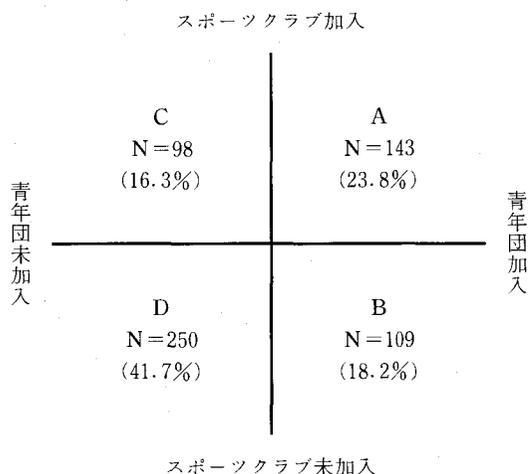


図1 青年の分類

調査時期：昭和62年2月
 調査方法：質問紙郵送法
 回収率：有効回収数602
 有効回収率33.4%

分析の視点

スポーツクラブと青年団への加入、未加入の状況によって、(A)「スポーツクラブ加入・青年団加入」、(B)「スポーツクラブ未加入・青年団加入」、(C)「スポーツクラブ加入・青年団未加入」、(D)「スポーツクラブ未加入・青年団未加入」の4つのタイプに分類した。(図1)

III. 結果と考察

1. スポーツ活動

(1) スポーツの種類

過去一年間に実施したスポーツの種類をみると、全体で多いのは「ソフトボール」25.7%、「バレーボール」24.3%である。この2つの種目はコミュニティスポーツの中でも男性のソフトボール、女性のバレーボールと最も普及しているものである。次に多いが「テニス」の17.4%、「ボーリング」の15.6%である。前者の場合、都市でブームを引き起こし、それが農村にも普及しているものと思われる。後者の場合には、少人数で気軽に出来ることが若者に受けているのではあるまいか。(表1)

表1 スポーツの種類 M.A. (%)

項目	A	B	C	D	全体
ソフトボール	60.1	13.8	37.4	6.8	25.7
バレーボール	38.5	34.9	15.2	15.2	24.3
テニス	11.2	17.4	30.3	16.0	17.4
ボーリング	7.7	22.0	12.1	18.8	15.6
ランニング	13.3	6.4	9.1	9.6	10.8
パドミントン	4.9	7.3	11.1	11.6	9.1
野球	19.6	0.9	10.1	2.4	7.5
卓球	5.6	8.3	4.0	8.0	6.8
バスケットボール	7.7	2.8	8.1	6.0	6.1
ダンス	2.1	5.5	11.1	6.0	5.8
その他	21.0	8.3	29.4	15.6	13.1
行っていない	0.0	21.1	0.0	27.2	15.4
無回答	0.0	0.0	0.0	1.2	0.5

各群を比較すると、A群は「ソフトボール」が60.1%と最も多く、「バレーボール」38.5%、「野球」19.6%と続いている。これらの種目はコミュニティスポーツとして代表的なものであり、スポーツクラブへ加入し実施しているといえる。B群はスポーツクラブに加入していないが、校区や青年団のスポーツ行事としてよく行われている「バレーボール」に34.9%とよく参加している。また「ボーリング」22.0%、「テニス」17.4%といった気軽に出来るスポーツもよく実施している。C群はスポーツクラブへ加入しているが、A群とは違った様相を示している。「ソフトボール」が37.4%と最も多いが、次に「テニス」が30.3%と多いことである。テニスがコミュニティスポーツとして、あるいは商業スポーツとして実施されるにしても、これからのスポーツとして興味深いものがある。D群はスポーツクラブに入っていないB群に比べてスポーツの実施率が低く、商業スポーツのボーリングをよく実施している。

全般的にいうと、青年団加入のA群、B群の人は集団で行うスポーツをよく実施しているの

に対し、青年団未加入のC群、D群の人は個人で行うスポーツをよく実施している傾向がみられる。

(2) スポーツ施設

スポーツ活動を行っている者の実施場所をみると、全体では「学校の体育施設」51.1%と「公共施設」50.9%が多い。次いで「公園・空き地・道路」17.0%と「商業施設」16.6%が続いているが、「職場の施設」の占める割合は6.7%と少ない。つまり農村のスポーツ施設は学校や公共のスポーツ施設に依存しているといえる。(表2)

表2 スポーツ施設 M.A. (%)

項目	A	B	C	D	全体
学校の体育施設	70.6	52.3	50.5	35.0	51.1
公共施設(学校を除く)	62.9	45.3	62.6	37.2	50.9
公園・空き地・道路	14.0	16.3	14.1	21.1	17.0
商業施設	6.3	23.3	14.1	22.8	16.6
職場の施設	2.8	3.5	6.1	11.7	6.7
野外(海・山・川)	2.8	2.3	8.1	6.7	5.1
自宅	1.4	5.8	1.0	6.1	3.7
その他	0.0	1.2	3.0	1.7	1.4
無回答	0.7	0.9	1.0	0.0	0.6

各群を比較すると、A群は「学校の体育施設」70.6%と「公共施設」62.9%が高いのに対し、C群も「公共施設」62.6%と「学校の体育施設」50.5%が高く、両者ともよく施設を利用している。一方B群、D群も学校と公共の施設を利用しているが、「商業施設」(B群23.3%、D群22.8%)もある程度利用している点が注目される。また青年団加入者と未加入者との比較では、加入者は学校施設が一番であるのに対し、未加入者は公共施設が一番である。このことは青年団加入者が校区レベルのスポーツ活動をよく実施しているのに対し、未加入者は町レベルのスポーツ活動をよく実施しているものと推察される。

(3) クラブの性格

A群は「自分らの仲間」が68.5%と非常に多く、「地区や校区」39.9%、「職場や仕事の関係」21.7%と続いている。C群は「自分らの仲間」35.7%が多く、「職場や仕事の関係」28.6%、「地区や校区」27.6%と続いている。(表3)

表3 クラブの性格 M.A. (%)

項目	A	C
自分らの仲間	68.5	35.7
地区や校区	39.9	27.6
職場や仕事の関係	21.7	28.6
町が行っているスポーツ教室	9.8	17.3
その他	2.1	7.1
無回答	0.7	2.0

両群を比較すると、A群は「自分らの仲間」や「地区や校区」のクラブが多く、C群は「職場や仕事の関係」や「町が行っているスポーツ教室」のクラブが多い傾向がみられる。A群の場合は青年団活動との関係で、人間関係が広がり、地域とのつながりが強くなり、それがもとで「自分らの仲間」や「地区や校区」レベルのクラブ加入者が多いのではあるまいか。

(4) 地域で実施したいスポーツ

全体では「テニス」が32.9%と最も多く、「バレーボール」17.4%、「ソフトボール」16.1%、「バドミントン」13.5%、「ダンス」13.0%と続いている。(表4) コミュニティスポーツを代表するスポーツであるバレーボール(実施率24.3%)とソフトボール(実施率25.7%)の下降がみられ、最近ブームとなっているテニス(実施率17.4%)の上昇が顕著である。またバドミントン(実施率9.1%)、ダンス(実施率5.8%)などのいわゆるレクリエーション・スポーツの上昇がみられる。

各群を比較すると、A群では、バレーボール、ソフトボール、テニス、野球とどちらかといえば技術が必要な集団で実施する種目が多い。C群はテニスが最も多く、ソフトボール、サッ

表4 地域で実施したいスポーツ M.A. (%)

項 目	A	B	C	D	全体
テ ニ ス	28.0	33.9	40.4	32.4	32.9
バレーボール	29.4	19.3	9.1	14.8	17.4
ソフトボール	28.7	13.8	20.2	8.4	16.1
バドミントン	7.7	17.4	7.1	17.2	13.5
ダンス	8.4	15.6	10.1	15.6	13.0
ランニング(ジョギング)	10.5	10.1	12.1	10.4	10.6
野 球	20.3	0.9	6.1	4.0	7.6
サ ッ カ ー	11.9	2.8	13.1	4.0	7.1
バスケットボール	2.8	5.5	8.1	6.8	6.0
美 容 体 操	3.5	5.5	3.0	7.6	5.5
軽 ス ポ ー ツ	6.3	5.5	6.1	3.2	4.8
格 技	7.0	0.9	8.1	2.8	4.3
そ の 他	6.3	11.9	12.1	11.6	10.5
別 に な い	5.6	15.6	6.1	14.8	11.3
無 回 答	0.0	0.0	1.0	0.8	0.5

表5 行政への希望 M.A. (%)

項 目	A	B	C	D	全体
施設をもっと容易に利用できるようにしてほしい	34.3	40.3	43.4	42.0	40.0
スポーツができる施設をそろえてほしい	25.2	15.6	25.3	26.8	24.1
施設の使用料金を安くしてほしい	16.1	19.3	20.2	16.4	17.4
夜間照明をもっと整えてほしい	18.9	8.3	16.2	5.6	11.3
専門的な指導者を紹介してほしい	14.7	8.3	13.1	8.8	11.0
スポーツ活動に財政的援助をしてほしい	23.8	3.7	14.1	4.4	10.5
健康・体力作りの講座学級を開いてほしい	10.5	11.0	6.1	9.6	9.5
広報活動をもっとしてほしい	3.5	5.5	5.1	9.6	6.8
その他	1.4	0.9	0.0	1.2	1.0
別がない	11.2	24.8	10.1	20.8	17.4
無回答	0.0	0.0	1.0	0.4	0.3

カーと続いている。B群、D群はバレーボールを除けば、テニス、バドミントン、ダンスと個人でも実施できるスポーツ種目を希望する人が多い。この現実をふまえ、行政側はこれらのスポーツ教室を開催し、そこからスポーツクラブを育成し、このような種目ができるスポーツ施設を整備していくことも必要である。

(5) 行政への要望

全体では「施設をもっと容易に利用できるようにしてほしい」40.0%が最も多く、「スポーツができる施設をそろえてほしい」24.1%、「施設の使用料金を安くしてほしい」17.4%、「夜間照明をもっと整えてほしい」11.3%と続いており、スポーツ施設に関する要望が多い。(表5)

各群を比較すると、「施設をもっと容易に利用できるようにしてほしい」「スポーツができる施設をそろえてほしい」「施設の使用料金を安くしてほしい」はどの群も多い。またスポーツクラブ加入者は未加入者に比べて行政への要望を多くもち、「夜間照明をもっと整えてほしい」「専門的な指導者を紹介してほしい」「スポーツ活動に財政的な援助をしてほしい」を要望する者が多い。これはソフトボールや野球のように夜間照明が必要なスポーツを多くしていることやクラブ運営に必要な指導者と財政的援助の必要性を感じているのではあるまいか。一方、未加入者は「健康・体力づくりの講座・学級を開いてほしい」が多い。これはダンスなどをはじめとするレクリエーション・スポーツへの要望が高いものと推察される。

2. 青年団活動

(1) 加入の動機

青年団加入の動機としては、「青年団員の勧誘があったから」(A群56.6%、B群71.6%)が最も多く、「自分のためになりそうだから」(A群11.2%、B群6.4%)、「おもしろそうだから」(A群6.3%、B群8.3%)というような自分から進んで加入した者は少ない。(表6)

両群を比較すると、B群の方が「青年団員の勧誘があったから」が多く、消極的加入者が多い。一方、A群はB群よりやや積極的加入者が多いといえる。

昭和57年度北宇和郡吉田町の青年団調査¹⁾によれば、「青年団員の勧誘があったから」43.3%、「おもしろそうだったから」14.6%、「自分のためになりそうだったから」14.6%であり、ここ5年間に積極的加入者の減少がみられる。

(2) 各種活動への参加

各種活動（学習、文化、スポーツ、社会活動）への参加状況を見るとすべての活動においてA群の人がよく参加している。（表7、表8、表9、表10）

A群では、「よく参加する」に注目すると「学習活動」28.7%、「文化活動」39.8%、「スポーツ活動」72.0%、「社会活動（奉仕も含む）」43.3%となっている。さらに、「よく参加する」に「時々参加する」を加えると、「学習活動」64.3%、「文化活動」79.0%、「スポーツ活動」91.6%、「社会活動」75.5%であり、スポーツ活動に一番よく参加しており、学習活動に参加者が少ないことがわかる。

一方B群では、「よく参加する」に注目すると「学習活動」8.3%、「文化活動」19.3%、「スポーツ活動」18.3%、「社会活動」14.7%となっている。さらに、「よく参加する」に「時々参加する」を加えると、「学習活動」43.1%、「文化活動」56.8%、「スポーツ活動」68.8%、「社会活動」60.6%であり、文化活動、スポーツ活動、社会活動に参加者が多く、学習活動に参加者が少ない。

各種活動の中でもスポーツ活動はA群の人たちが特に参加する活動である。この理由としてスポーツクラブの加入者は、スポーツが好きであり、運動技能も優れていることから青年団の

表6 加入の動機 (%)

項	目	A	B
青年団の勧誘があったから		56.6	71.6
地域に残れば加入するものだと思って いたから		16.8	9.2
自分のためになりそうだったから		11.2	6.4
おもしろそうだったから		6.3	8.3
友人が加入したから		2.8	0.9
異性との交流ができると思ったから		2.1	0.9
職場の上司に勧められたから		0.7	0.9
その他		2.8	1.8
無回答		0.7	0.0

表7 学習活動 (%)

項	目	A	B
よく参加する		28.7	8.3
時々参加する		35.6	34.8
あまり参加しない		25.2	30.3
全然参加しない		9.8	24.8
無回答		0.7	1.8

表8 文化活動 (%)

項	目	A	B
よく参加する		39.8	19.3
時々参加する		39.2	37.5
あまり参加しない		15.4	29.4
全然参加しない		5.6	11.0
無回答		0.0	2.8

表9 スポーツ活動 (%)

項	目	A	B
よく参加する		72.0	18.3
時々参加する		19.6	50.5
あまり参加しない		5.6	26.6
全然参加しない		2.1	3.7
無回答		0.7	0.9

表10 社会活動（奉仕も含む） (%)

項	目	A	B
よく参加する		43.3	14.7
時々参加する		32.2	45.9
あまり参加しない		14.0	26.6
全然参加しない		9.8	11.9
無回答		0.7	0.9

スポーツ行事によく参加するものと思われる。文化活動や社会活動への参加は、A群では中程度であるのに対し、B群ではスポーツ活動と同じぐらい参加している。学習活動は他の活動に比べてA群、B群とも参加者が少ない。

青年団活動は四つの活動のバランスがとれてこそ本当の姿である。スポーツ活動を通して人間関係を作り、そこから学習、文化、社会活動への道をさぐるのも一つの方法である。筆者は過去の研究^{2),3)}において、コミュニティ関与の方法として、スポーツ活動から趣味・学習活動や奉仕活動への方法がコミュニティ活動への参加者を増やす一つの有効な戦略であることを実証してきたが、これは青年団活動にもあてはまると思う。青年団勧誘の方法として、スポーツ活動を起爆剤として青年団加入者を増加させていくことも必要と思う。

表11 印象に残った活動 M. A. (%)

項 目	A	B
芸能祭・文化祭	50.3	45.0
スポーツ大会	44.8	40.4
レクリエーション行事	18.9	11.9
地域行事(祭り・盆踊り)	8.4	9.2
旅行(研修旅行)	10.5	4.6
奉仕活動	7.0	10.1
趣味・学習活動	2.1	3.7
交流会	2.8	2.8
その他	10.5	6.4
無回答	14.7	21.1

(3) 印象に残った活動

両群とも「芸能祭・文化祭」が最も多く、「スポーツ大会」「レクリエーション行事」と続いている。(表11)なぜ芸能祭・文化祭が多いかというと、芸能祭・文化祭での出し物である演劇をより自分のためになったと考える人が多いことを表わしているものと思われる。スポーツ活動は確かに楽しいが、それは自分たちで楽しむものである。ところが演劇は、何ヶ月前から練習を始め、またシナリオを自分たちで考えるなどの創造的な活動であり、これを地域の人々に披

露するという、見せる楽しみを伴うものである。ここに演劇のもつ魅力が存在するものと考えられる。そこから、参加率はスポーツより低いにもかかわらず印象に残った活動となれば演劇が思いうかぶのである。

またスポーツ大会は芸能祭・文化祭に比較すれば少ないが、レクリエーション行事を加え、スポーツ・レクリエーション活動にすれば一番印象に残る活動であるといえよう。それに対し、趣味・学習活動は両群とも3%前後であり、不振をきわめている。趣味・学習活動が少ないことも問題であるが、魅力的な趣味・学習活動を企画しえない体制にも問題が残ろう。

(4) 加入して良かったこと

両群とも加入して良かったこととして、「交友関係が広がった」が最も多く、ついで「様々な経験をすることができた」「地域の人と親しくなった」「視野が広がった」「地域を知ることができた」と続しており、両群における差はあまりみられない。(表12)

青年団活動は多種多様な活動(学習、文化、スポーツ、社会活動など)を仲間と共に実践することによって、交友関係が広がり、その活動のほとんどが地域とのつなが

表12 良かったこと M. A. (%)

項 目	A	B
交友関係が広がった	84.6	79.8
様々な経験をすることができた	48.3	52.3
地域の人と親しくなった	34.3	27.5
視野が広がった	28.0	17.4
地域を知ることができた	21.7	18.3
気分転換・ストレス解消になった	15.4	19.3
好きな異性がみつかった	6.3	10.0
仕事をする上で、プラスになった	4.9	2.8
自信がついた	2.8	1.8
その他	10.5	9.2
無回答	0.0	0.0

りをもつために、地域の人と親しくなったり、地域を再認識したりするようになるものと思われる。また他の地域への研修やつどいによって視野を広めたりしていく。

(5) 加入して悪かったこと

両群とも加入して悪かったことは、「自分の時間がなくなった」が最も多く、次いで、「帰宅時間がおそくなった」「出費がふえた」「好きな行動ができなくなった」と続いており、時間的側面や金銭的側面を指摘する人が多い。(表13) 青年団の役員になれば、毎日のように会合が開かれる場合もあり、またスポーツクラブに加入でもす

れば、その合間をぬっての活動は時間がなくなる場合が多い。また女性の場合、「帰宅時間がおそくなった」は特に問題であり、「帰宅時間がおそくなるから入らない」という未加入者の声もあり、もっと能率的な活動を行うことを考える必要があろう。加えて「出費がふえた」ことは交友関係が広まることによる交際費の増加によるものと思われる。

両群を比較すると、A群がB群よりも悪かったことを指摘する人が多い。それにもかかわらず、A群の人がより熱心に青年団活動に参加している。それは、悪いことがたくさんありながらも、それより良いことのほうが青年団員の心をとらえているのではあるまいか。活発に活動している一青年団員は、「加入して悪かったことはたくさんある。それでもなおなぜ参加しているのかと聞かれたら、それは悪いことはたくさんあるが、それ以上に良いことのほうが多いからだ」と答えるだろう。」と話していた。このあたりに、青年団の魅力が存在しているかも知れない。

(6) 青年団活動の問題点

全体として、「活動がマンネリ化している」が最も多く、次いで「活動に参加しない人が多い」「女子団員が少ない」「役員ばかりが仕事をしている」「団員数が少ない」「行事が多すぎる」と続いている。(表14)

両群と比較すると、A群では「女子団員が少ない」「役員ばかりが仕事をしている」「団員数が少ない」が多く、B群では「活動に参加しない人が多い」と答えた人が多い。

青年団活動の問題点を集約すれば、活動のマンネリ化、ユースレイ団員の存在、団員数の減少(特に女性)、役員への過重負担などがあげられる。

このような現状を打開するためにはどのような方策が必要であろうか。まず第一に

表13 悪かったこと M.A. (%)

項目	A	B
自分の時間がなくなった	46.2	37.6
帰宅時間が遅くなった	33.6	22.6
出費が増えた	33.6	20.2
好きな行動ができなくなった	25.9	18.3
身体的・精神的に疲れる	18.2	19.3
仕事との両立がうまくいかない	21.0	10.1
いやなことをやらされた	7.0	12.8
内部の人間関係が悪くなった	4.9	5.5
家庭内の立場が悪くなった	4.9	0.9
その他	3.5	1.8
悪いことは何もなかった	11.9	21.1
無回答	1.4	0.9

表14 青年団活動の問題点 M.A. (%)

項目	A	B
活動がマンネリ化している	55.2	53.2
活動に参加しない人が多い	33.6	46.8
女子団員が少ない	42.0	31.2
役員ばかりが仕事をしている	37.8	26.6
団員数が少ない	30.1	22.0
行事が多すぎる	14.0	13.8
退団年齢が低下している	14.7	10.0
社会活動への参加者が少ない	8.4	7.3
学習活動への参加者が少ない	7.6	7.3
上下関係がうまくいっていない	6.3	5.5
その他	13.1	8.3
問題点は何もない	2.8	0.9
無回答	0.7	3.7

「実行委員会制」⁴⁾を引くことである。実行委員会制とは各行事ごとにプロジェクトチームをつくり、役員だけの青年団活動ではなく、役割分担によってできるだけ多くの団員で運営していくシステムである。これによってユーレイ団員の解消と役員の過重負担を防ぐことができる。第二に、行事を整理し、活動のマナー化を防ぐ。第三に女子団員への気くばりを行う。青年団活動の終りの時間が、夜の10時、11時になるというのでは、女子団員は参加しにくい。すべての活動は夜の9時まで、遅くとも9時半までに終らすようにするなどの対策が必要である。第四に、青年団員の勧誘を活発に行う。例えば職場やスポーツクラブを通して勧誘したり、青年団が将来の「町・村おこし」にいかに必要なかを町民に理解してもらうために広報活動を行う。

以上のような活動を通して青年団を活性化していく必要がある。

(7) 青年団に加入しない理由

全体では、「学校や就職の関係で地域の外に出ていたから」が最も多く、次いで「時間がないから」「他にやりたいことがあるから」「勧誘されなかったから」「集団にしばられたくないから」と続いている。(表15)

表15 青年団に加入しない理由 M. A. (%)

項 目	C	D
学校や就職の関係で地域外に出ていたから	31.3	42.0
時間がないから	36.4	31.6
他にやりたいことがあるから	33.3	20.8
勧誘されなかったから	21.2	20.8
青年団がおもしろくないから	23.2	17.6
集団にしばられたくないから	24.2	16.4
帰宅が遅くなるから	10.1	9.2
友人が加入しなかったから	4.0	8.0
スポーツクラブに加入しているから	17.2	0.0
疲れるから	3.0	6.0
その他	12.1	16.8
無回答	0.0	1.6

両群を比較すると、C群では「他にやりたいことがあるから」「青年団がおもしろくないから」「集団にしばられたくないから」「スポーツクラブに加入しているから」が多く、D群では「学校や就職の関係で地域の外へ出ていたから」が多い。

D群は女性が多く、地域外に一度出て、帰ってきて22、23歳位で女性は退団してしまう場合が多く、加入しないのではないかと予測される。一方スポーツクラブ加入のC群は男性が多く、スポーツクラブが青年団に代わる交流の場として出現してきたのではあるまいか。スポーツクラブでは、単一の活動内容のもとに人が集まり、クラ

ブ員の活動目的も明確であるのに対し、青年団は多種多様の活動内容を有し、団員の活動目的もそれほど明確ではない。またスポーツクラブでは、活動の後、酒を飲むなどの楽しみがあるが、青年団はボランティア活動もせねばならず、それほど楽しいものとはいえない活動もある。そのため、最近の若者のトレンドである「しんどいことはしたくない」、どちらかといえば「楽なことだけしたい」という行動がここにも現れている。この傾向が続いていけば、「青年団加入者が今後のコミュニティ活動をささえていく」という仮説をあてはめれば、大変なことになると思われる。

(8) 加入条件

未加入者が青年団へ加入するための条件をみると、「ひまができたら」が最も多く、「友人が加入すれば」「青年団員に勧誘されたら」「おもしろい行事が企画されたら」と続いている。(表16)

何らかの条件がそろえば加入してもよいと答えたものは、C群72.7%、D群%63.6%と加入

意志をもっている人が多い。D群の数字が低いのは、D群の中に主婦が14.4%もおり、C群の2.0%に比べて多いために表れたものだと推察される。

「ひまができたら」という回答以外は青年団の運営方法を改善することによって解決できるものである。「友人が加入すれば」という人に対しては、高校卒業生の一覧表を作り加入をはたらきかける。またスポーツクラブや、趣味のサークルの人間関係を通して加入をはたらきかけるのも一つの方法である。

「青年団員に勧誘されたら」という人に対しては、青年団員や青年団OBを通して個別訪問をしたり、ビラ、チラシ、ポスターなどによって勧誘を進めたりするのも一つの方法である。「おもしろい行事が企画されたら」という人に対しては、未加入者のアンケート調査をしてニーズをとらえ、未加入者のプログラムを実施するなどのことから青年団のイメージを「ダサイ」「暗い」から「ナウイ」「明るい」というような現代社会にマッチしたものに変わっていくのも一つの方法である。

これらのことを通して、地域社会の人々の指示を得た青年団を構築し、「コミュニティづくり」や「町・村おこし」の中核となるような青年団を育成したいものである。

3. コミュニティ活動

(1) 趣味・学習活動

地域における趣味・学習活動への参加状況をみると、全体では、「積極的に取り組んでいる」と「まあまあ取り組んでいる」者を合わせると28.9%であり、あまり取り組んでいないといえる。(表17)

各群を比較すると、A群63.6%、B群17.4%、C群37.8%、D群10.8%とA群がよく取り組み、ついでC群の順である。地域スポーツ行事参加者は不参加者よりも趣味・学習活動によく参加しているという先行研究⁵⁾はこのことを実証しているといえよう。

(2) 地域行事

各種球技大会への参加状況をみると、「よく参加する」と「時々参加する」を合わせると、A群86.0%、C群65.3%、B群58.7%、D群25.2%の順である。(表18)

運動会への参加状況をみると、「よく参加する」と「時々参加する」を合わせると、A群82.5%、B群61.5%、C群53.1%、D群31.6%の順である。(表19)

祭りへの参加状況をみると、「よく参加する」と「時々参加する」を合わせると、A群84.6%、B群78.9%、C群68.3%、D群50.0%の順である。(表20)

盆踊りの参加状況をみると、「よく参加する」と「時々参加する」を合わせると、A群74.8%、B群67.9%、D群40.0%、C群39.8%の順である。(表21)

清掃への参加状況をみると、「よく参加する」と「時々参加する」を合わせると、A群74.8%、B群51.4%、C群51.0%、D群35.6%の順である。(表22)

次に五つの地域行事参加を合計し平均すると、A群80.6%、B群63.6%、C群55.5%、D群36.

表16 加入条件 M. A. (%)

項 目	C	D
ひまが出来たら	40.4	24.8
友人が加入すれば	13.1	20.0
青年団員に勧誘されたら	11.1	15.6
おもしろい行事が企画されたら	11.1	8.0
異性の団員がたくさんいれば	8.1	5.2
職場の上司に勧められたら	2.0	2.4
その他	13.1	7.2
どのような条件が整っても、青年団へ加入するつもりはない	27.3	36.4
無回答	2.0	2.4

表17 趣味・学習活動 (%)

項 目	A	B	C	D
積極的に取り組んでいる	14.7	0.9	5.1	2.0
まあまあ取り組んでいる	48.9	16.5	32.7	8.8
あまり取り組んでいない	19.6	36.7	16.3	17.6
ほとんど取り組んでいない	14.7	45.0	44.9	70.8
無回答	2.1	0.9	1.0	0.8

表18 各種球技大会 (%)

項 目	A	B	C	D
よく参加する	62.9	11.0	30.6	5.2
時々参加する	23.1	47.7	34.7	20.0
全然参加しない	10.5	40.4	33.7	71.6
無回答	3.5	0.9	1.0	3.2

表19 運動会 (%)

項 目	A	B	C	D
よく参加する	52.4	17.4	14.3	10.8
時々参加する	30.1	44.1	38.8	20.8
全然参加しない	14.0	37.6	43.8	66.4
無回答	3.5	0.9	3.1	2.0

表20 祭り (%)

項 目	A	B	C	D
よく参加する	54.5	23.9	19.4	10.4
時々参加する	30.1	55.0	48.9	39.6
全然参加しない	9.8	20.2	28.6	47.2
無回答	5.6	0.9	3.1	2.8

表21 盆踊り (%)

項 目	A	B	C	D
よく参加する	47.5	18.3	14.3	10.0
時々参加する	27.3	49.6	25.5	30.4
全然参加しない	18.9	31.2	57.1	57.6
無回答	6.3	0.9	3.1	2.0

表22 清掃 (%)

項 目	A	B	C	D
よく参加する	28.7	6.4	12.2	11.2
時々参加する	46.1	45.0	38.8	24.4
全然参加しない	21.0	45.8	45.9	61.7
無回答	4.2	2.8	3.1	2.7

6%の順になっている。つまり、A群はすべての地域行事によく参加しているといえる。特に「よく参加する」と回答した者は他群に比べて非常に多いといえる。またB群とC群を比較すると、行事間において差はみられるが、ややB群の方がよく参加している傾向がみられる。D群は一番参加率が低く、あまり地域行事に関与していないといえる。

地域行事への参加が将来のコミュニティ活動への参加状況やコミュニティづくりに影響を及ぼすと仮定すれば、スポーツクラブや青年団の両方に加入することは大変重要である。

4. コミュニティ意識

鈴木広⁶⁾はコミュニティ意識をコミュニティ・モラルとコミュニティ・ノルムに分けているが、本稿ではコミュニティ・モラルから見ていく。

コミュニティ・モラルは人びとのコミュニティに対する関与の程度を知るための概念装置である。したがってコミュニティ・モラルが高いほど、コミュニティ形成にとって望ましいといえる。またコミュニティ・モラルは感情、統合認知、参加意欲の三要素からなっている。

感情は、愛着感、同一感、安定感、満足感などといった感情の水準を問うものである。

統合認知は、コミュニティというまとまりについて評価するものである。

参加意欲は、参加意志、役割意識、使命観、達成要求など、コミュニティに対する関与の強さを表すものである。

コミュニティ・モラルに関する質問文については次のような内容である。

〈感情〉

1. 安堵感…外出してこの町に帰ってきた時に、「自分の町に帰ってきた」と感じてほっとしますか。
2. 同一視…人からこの地域の悪口をいわれたら、何か自分の悪口をいわれたような気になりますか。
3. 仲間意識…この町の人たちはみんな仲間という気がしますか。
4. 好き嫌い…この町（地域）が好きですか。

〈統合認知〉

1. まとまり…この町の人たちのまとまりはいい方だと思いますか。
2. リーダー…この地区のリーダーたち（町内会とか婦人会、PTAなどの役員など）はがいて地域のためによくやっていると思いますか。
3. 相互扶助…この地区に住んでいるみんなは、お互いに何かとお世話しあっていると思いますか。
4. 団結心…この町の人たちはお互いに協力する気持（団結心）が強い方だと思いますか。

〈参加意欲〉

1. 役割意識…この町のためになることをして何か役に立ちたいと思いますか。
2. 地域政治…この町や校区を代表するような町会議員を出すことは大切だと思いますか。
3. 地域行事への参加…町内や校区で一緒にする行事（運動会、寄付、清掃、署名運動など）にあなたは参加する方ですか。
4. 行事関心…町内、校区内でするいろいろなこと（役員改選、年中行事、建設、道路事業など）に関心がありますか。

そして、これらの質問に対してはすべて五段階にランクづけされた回答、例えば「この町（地域）が好きですか」に対しては、(1)非常に好き、(2)やや好き、(3)どちらでもない、(4)やや嫌い、(5)非常に嫌い、などを用意した。

表23～表34は、感情（安堵感、同一視、仲間意識、好き嫌い）、統合認知（まとまり、リーダー、相互扶助、団結心）、参加意欲（役割意識、地域政治、地域行事への参加、行事関心）を表したものである。

〈感情〉

表23 安堵感

(%)

項 目	A	B	C	D
そのとおりだと思う	48.9	40.3	34.7	28.4
まあそのとおりと思う	32.2	35.8	37.7	39.6
どちらともいえない	9.8	16.5	18.4	10.8
あまりそうは思わない	7.0	2.8	6.1	12.8
ほとんどそうは思わない	1.4	3.7	3.1	8.0
無回答	0.7	0.9	0.0	0.4

P<0.01 (χ²検定、以下同じ)

表24 同一視

(%)

項 目	A	B	C	D
かなりそう感じる	29.4	23.9	20.4	13.2
まあそう感じる	50.3	54.9	47.0	47.2
どちらともいえない	12.6	10.1	13.3	18.4
あまりそう感じない	7.7	8.3	12.2	13.6
ほとんどそう感じない	0.0	2.8	5.1	7.6
無回答	0.0	0.0	2.0	0.0

P<0.001

表25 仲間意識 (%)

項 目	A	B	C	D
そう思う	14.8	8.3	5.1	4.8
まあそう思う	39.4	29.4	27.6	24.0
どちらともいえない	32.4	46.7	38.8	36.0
あまりそうは思わない	12.7	12.8	19.3	28.0
ほとんどそうは思わない	0.7	2.8	8.2	6.4
無回答	0.7	0.0	1.0	0.8

P < 0.001

表26 好き嫌い (%)

項 目	A	B	C	D
非常に好き	35.0	29.4	19.4	16.8
やや好き	42.6	46.8	46.9	46.1
どちらともいえない	16.1	16.5	24.5	29.1
やや嫌い	6.3	6.4	5.1	4.8
非常に嫌い	0.0	0.9	4.1	3.2
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0

P < 0.05

<統合認知>

表27 まとまり (%)

項 目	A	B	C	D
非常によい	5.6	2.8	4.1	6.0
まあよい	64.3	52.3	56.1	47.6
どちらともいえない	26.6	37.6	35.7	39.2
やや悪い	3.5	6.4	3.1	5.6
非常に悪い	0.0	0.9	1.0	1.2
無回答	0.0	0.0	0.0	0.4

N. S.

表28 リーダー (%)

項 目	A	B	C	D
非常によくやっている	21.0	12.8	11.2	8.0
まあよくやっている	61.5	51.4	53.1	53.6
どちらともいえない	15.4	31.2	29.6	33.2
あまりやっていない	2.1	3.7	5.1	4.0
まったくやっていない	0.0	0.0	1.0	0.8
無回答	0.0	0.9	0.0	0.4

N. S.

表29 相互扶助 (%)

項 目	A	B	C	D
全くそのとおりだと思う	15.4	9.2	13.3	8.8
まあそのとおりだと思う	56.6	65.1	53.1	52.8
どちらともいえない	23.1	23.9	26.5	29.2
あまりそうではないと思う	4.2	1.8	6.1	7.2
ほとんどそうでないと思う	0.7	0.0	1.0	1.6
無回答	0.0	0.0	0.0	0.4

N. S.

表30 団結心 (%)

項 目	A	B	C	D
非常に強い方だと思う	9.8	5.5	9.2	8.8
やや強い方だと思う	47.5	50.5	41.9	35.6
どちらともいえない	32.9	39.4	40.8	46.8
あまりそうではないと思う	8.4	3.7	6.1	6.8
ほとんどそうでないと思う	1.4	0.0	2.0	2.0
無回答	0.0	0.9	0.0	0.0

P < 0.05

<参加意欲>

表31 役割意識 (%)

項 目	A	B	C	D
そう思う	18.2	8.3	13.3	8.0
ある程度思う	50.3	44.9	53.0	34.4
どちらともいえない	24.5	40.4	21.4	33.6
あまり思わない	5.6	4.6	8.2	18.0
ほとんど思わない	1.4	1.8	4.1	6.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0

P < 0.001

表32 地域政治 (%)

項 目	A	B	C	D
非常に大切だと思う	44.0	27.5	30.6	22.4
やや大切だと思う	35.7	38.6	37.8	42.0
どちらともいえない	17.5	27.5	23.5	26.8
あまり大切だと思わない	2.8	6.4	6.1	6.4
全く大切だとは思わない	0.0	0.0	2.0	2.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.4

N. S.

表33 地域行事への参加

(%)

項目	A	B	C	D
よく参加する	37.1	8.3	13.3	7.2
ある程度参加する	41.2	39.0	38.7	24.4
どちらともいえない	9.8	18.5	10.2	18.4
あまり参加しない	8.4	23.1	23.5	20.0
ほとんど参加しない	3.5	10.2	14.3	29.6
無回答	0.0	0.9	0.0	0.4

表34 行事関心参加

(%)

項目	A	B	C	D
非常に関心がある	17.5	4.6	9.2	3.6
やや関心がある	41.2	34.9	42.9	26.8
どちらともいえない	22.4	36.6	21.4	30.0
あまり関心がない	16.1	19.3	21.4	30.0
ほとんど関心がない	2.8	4.6	5.1	9.2
無回答	0.0	0.0	0.0	0.4

P<0.001

P<0.001

タイプ別からみたコミュニティ意識の形成について有為差があったのは感情的側面の安堵感、同一視、仲間意識、好き嫌い、統合認知の団結心、参加意欲の役割意識、地域行事への参加、行事関心である。また、有意差のみられなかった統合認知のまとまり、リーダー、相互扶助と参加意欲の地域政治においてA群は他の群よりも高い数字を示している。

表35は感情、統合認知、参加意欲のそれぞれ4つの調査内容を点数化(+2, +1, 0, -1, -2)し、まとめてその平均を出したものである。感情では、A群、B群、C群、D群の順であり、統合認知では、A群、B群、C群、D群の順であり、参加意欲では、A群、C群、B群、D群の順である。

表35 タイプ別からみたコミュニティ意識

(%)

参加活動数	感情					統合認知					参加意欲				
	+2	+1	0	-1	-2	+2	+1	0	-1	-2	+2	+1	0	-1	-2
A	32.1	41.2	17.8	8.4	0.5	13.0	57.5	24.5	4.5	0.5	29.2	42.1	18.6	8.2	1.9
B	25.6	41.8	22.5	7.6	2.5	7.7	55.2	33.2	3.9	0.0	12.2	39.6	30.6	13.4	4.2
C	20.1	40.0	23.9	10.8	5.2	9.4	53.7	30.3	5.4	1.2	16.6	43.1	19.1	14.8	6.4
D	15.8	39.3	23.7	14.9	6.3	7.9	47.7	37.2	5.9	1.3	10.3	32.0	27.3	18.6	11.8

全体をまとめると、A群が最も高く、B群、C群の順に続き、D群が一番低い。つまり、スポーツクラブと青年団の両方とも加入している者が一番コミュニティ意識の形成にとって望ましいといえる。A群が高い理由としては、スポーツクラブや青年団の活動を通して地域との関連をもち、そのことが、趣味・学習活動や地域行事(各種球技大会、運動会、祭り、盆踊り、清掃など)への参加につながり、コミュニティ意識の形成に寄与したと思われる。

B群とC群を比較すると、B群の方がコミュニティ意識が少し高いがあまり変わらない。青年団やスポーツクラブの活動を通してA群ほどではないが、両群ともコミュニティ意識の形成がみられる。

一方D群は、地域とのつながりがあまりなく、地域行事への参加に対しても消極的であり、コミュニティ意識の形成に関しては低い数字を示している。今後ともD群の人々に対しては何かの働きかけが必要であろう。

Ⅳ. 結 論

(1)農村の青年がよく実施しているスポーツはソフトボール、バレーボールが多いが、今後実

施したいスポーツはテニスが多い。

(2)青年団加入者(A群, B群)がよく実施しているスポーツはソフトボール, バレーボールが多く, 利用施設も学校施設が多いのに対し, 未加入者(C群, D群)はソフトボールを除けばテニスとボーリングが多く, 利用施設も公共施設が多い。またスポーツクラブ未加入者(B群, D群)が今後実施したいスポーツは, テニス以外では, バドミントンやダンスなどのいわゆるレクリエーション・スポーツが多い。

(3)スポーツに関する行政への要望としては, スポーツ施設に関する要望が多く, 若者のニーズをふまえた施設づくりが必要である。

(4)青年団の各種活動(学習, 文化, スポーツ, 社会活動)の中で, スポーツが一番人気のある活動であり, なくてはならないものである。

(5)青年団に加入して良かったことは人間関係の広がりや地域への再認識をあげる人が多い。また悪かったことは時間がなくなったことと出費が増えたことをあげる人が多い。

(6)青年団活動の問題点としては, 活動のマナー化, ユーレイ団員の存在, 団員数(特に女性団員)の減少, 役員の過重負担などがあるが, いずれも解決すべき方法はある。

(7)青年団未加入者を加入させる方法として, スポーツクラブの人間関係を通して加入させるのも一つの方法であり, また青年団のイメージアップ作戦も一つの方法である。

(8)コミュニティ活動に一番よく参加している人は, スポーツクラブと青年団の両方とも加入している人(A群)であり, 一番参加していない人は両方とも加入していない人(D群)である。

(9)スポーツクラブや青年団の活動はどちらもコミュニティ意識の形成に寄与する。特に両方とも加入している人はコミュニティづくりにとって最も望ましいタイプであるといえる。

本研究に御協力いただいた吉田町教育委員会の鹿島倉史氏, 宇和町教育委員会の内藤利明氏, 野村町教育委員会の山本英明氏(野村小学校教諭), 城川町教育委員会の方々に深く感謝の意を表します。

[付記, なお, 本研究には昭和61年度文部省科学研究費補助金(一般研究C)が交付された。研究課題「農村における青年のコミュニティスポーツによるコミュニティ形成に関する研究」]

〈参考文献〉

- 1)岡田洋子「農村における青年のスポーツ活動に関する研究—青年団員を中心として—」愛媛大学教育学部保健体育科卒業研究 1982
- 2)堺賢治, 藤原誠「コミュニティスポーツとコミュニティ活動に関する研究—公民館レベルを中心にして—」愛媛大学教育学部紀要 第1部第29巻 pp. 143-150 1983
- 3)堺賢治「コミュニティスポーツとコミュニティ活動に関する研究(2)—農村の公民館レベルを中心にして—」愛媛大学教育学部紀要 第1部第31巻 pp. 157-164 1985
- 4)青年団研究所「組織強化に取り組む仲間たち」日本青年団協議会 1986
- 5)堺賢治「公民館分館のスポーツ活動に関する研究—地域スポーツ行事参加者と不参加者の比較—」愛媛大学教育学部紀要 第1部第35巻 pp. 125-136 1989
- 6)鈴木広編「コミュニティ・モラルと社会移動の研究」アカデミア出版会 1978